

自転車市民権獲得への登頂ルート クローズド&オープン の提案...PDF版

自転車活用推進計画異議-1-1

Real Cycle Aid Japan

リアルサイクルエイドジャパンでも街道山道町の道
...リアルCAJ/クローズド&オープン の提案 ≡ 和風サイクリングフォアオール...

2018年1月8日、その一本の電話によって舵が切られた。
シェフ級サイクリストライセンスと三位一体地域貢献型リアルサイクリングクラブを探る道へ。
その道は自転車市民権獲得という山頂へと続いている。

日本の"未知"を遊ぶ！スーパー先達の登場！

はじめに
クローズド&オープン の提案
先行実施と全国展開
大人のサイクリングと子供のサイクリング
レース+ザッピング+ワークショップ
自転車用ヘルメット利用
ザッピングと和風サイクリングフォアオール

20180705/coursecreate

[/RCAJ_CandO_01.jpg](#)

自転車活用推進計画異議-2-2

...はじめに...

知る人も稀な昭和31年の第一次サイクリングブーム、平成元年から始まったMTBブーム、そして現在進行形のエコ系インワード型自転車ブーム。繰り返される自転車ブームは、自転車市民権が根付いていない証と考えられます。

それは、サイクリングの法的根拠が曖昧という外的要因や、自転車ソフト標準化がなされていないという内部的要因、そして第一次サイクリングからの忘れ物(マナーアップ、インフラ整備、人材育成)や、MTBブームでの見落とし(活動時間の壁)などの多岐にわたる課題、それらが「外場内場多様性」として棚上げにされているからと分析しています。

『自転車市民権獲得の登頂ルートを探して、未だ誰をウロウロしている状態』
自転車関連団体元役員の日本の実情を現した言葉ですが、その通りだと思います。

そのウロウロ状態はグレーゾーンとも言われる大人のサイクリスト不在の「日本のサイクリング」を生み、欧米のグラデーション的なサイクリングの考えと隔絶の感があります。その違いに気づきつつありますが、一本の電話であったのは決して大袈裟ではありません。

※一本の電話から始まった、サイクリングの法的根拠に対する取材や意見交換、1/24-2/5、2/29-6/20の道の建設を経て、東京や大阪を中心に、メーカー&ショップ関係者30名、市民関係者10名、転送線の緑のメンバー約25名、そして企画委員11名、それにザッピング&サイクリング推進の職員アクトも含め、延べ約100名に会ったものです。それは、道路の自由使用の道で進んで「日本のサイクリング」を、警察見解として「歩行者利用の自動車の利用」や、世界の車が密集に集まっているMTBの道と歩行者の道の両立を模索しながら進んだ。それは「**自転車活用推進計画でも根拠が乏しいアクト**」問題であり、それが「外場内場多様性」として、関係者が共通認識とすることで、実現へのめどをめぐりながら、約半年かけて、改めて進めようとしています。

[/RCAJ_CandO_02.jpg](#)

自転車活用推進計画異議-3-3

...クローズド&オープン の提案...

▼日本のサイクリング:道路の自由使用の範囲で個人や仲間や知り合いと楽しむ
ソロクラブ≦ガイド≦コンペ≦イベント≦レース

▼UCIレギュレーション:サイクリングはレースを含むサイクリング全般
ソロクラブ≦ガイド≦コンペ≦イベント≦レース

一本の電話から始まったサイクリングの法的根拠に対する約半年間の取材や意見交換で明確になった「日本のサイクリング」とUCIレギュレーションの違いは、ソロ&グループサイクリング、グループサイクリングとレース、それぞれの関係が「<不連続」と「<連続」になっているとされます。それを関係者が共通認識とするところから、自転車市民権獲得に向けた登頂ルート探しが始まります。その上で、登頂ルートのひとつとしてリアルCAJ/クローズド&オープン」を提案します。

「街道」「山道」に合わせ、それぞれの角度で全国展開し山口県先行実施の両輪でクローズド&オープンを提案します。そのため、この整備計画全体はタスクフォース的に、各方向からの有志を交えた運営組織の構築が必要と考え、サイクリングフォアオールの理念で色々な「<不連続」と「<連続」を分析し、サイクリングネットワークの再構築するための人材交流と人材育成が最大の目的となります。また、ローカル面ですが「ザッピング」として、他の交通へのリスペクトもフォローします。

★自転車市民権獲得のために-その1/日本の実情を「街道」から認識しよう!
※概要...認定要件を満たす100km前後のコースを各都道府県約10コース、全国約500コース設定し、その走破数(10、25、50、75、100)を認定基準。SBAA認定ショップでヘルメットを購入し任意で参加。
★狙い...「近所コースから遠方コースまで、任意出走することによって様々な交流が生まれ、またその前提としてルート調査が必要になるが、そこで日本の道路事情があらわされる。
★懸念...「アクト」は認定という意味のフランス語。そのため、ナショナルレベルとして組織で進めたい場合は公的認定組織が必要。それを担うのがCAJであって欲しいし、参加資格やルート調査員の確保が課題。
★CKYP7...そう言った課題に取り組む、イベントサイクリングでもない、ガイド付きザッピングでもない、セルフ出走をサポートする新奇的な「100kmブルベ+山口スペシャルデイ」にCAJの冠を切ります。
C&O/大人のサイクリングと子供のサイクリングの違いを考察。

[/RCAJ_CandO_03.jpg](#)

自転車活用推進計画異議-4-4

★自転車市民権獲得のために-その2/日本の地域資源を「山道」から学ぼう!

⇒MTBデュアルミーティング(RCAJ)トーナメント
※概要...1年目、既存の耐久系イベントを予選大会とし、翌年メーカー冠のブロック大会とRCAJ決勝大会を新設し、二年跨ぎのトーナメントを実施。特にブロック大会では、レース+ワークショップ+ワークアウトを開催。
★狙い...MTBブーム時に各地に広まった乗場の提供のイベントの再構築と、レース関係者、ザッピング関係者、地元関係者の交流と、MTB愛好家の活動目標と新たなステージの提供。
★懸念...MTBブームからの忘れ物、活動時間の確保や、負の運営、エリアとの信頼関係、そして、他の利用者とのかみ分け問題、そして担当部署の空白など、アクトチャイタルな要素が多すぎない?。
★CKYP7...今年で20回目の汗汗フェスタは、MTB人気絶頂中の九州圏に譲り、また、常設MTBザッピングコース計画のある薩摩高原には江戸期の街道が交錯しており、その活用には人材育成が急務。
C&O/ロード&オフロードの両輪でザッピングとワークアウトの両輪でザッピングの両輪を軸に。

★自転車市民権獲得のために-その3/自転車の二面性を「町の道」で検証しよう!

⇒BAAカップ萌黄と紅葉のラリーデー
※概要...日本にはサイクリングのベストシーズンが2度ある。それに合わせて年齢性別車種不問で誰にも優勝のチャンスがあるTHT26を、ショップ、ユーザー、地域が三位一体で連携し、スクール&ライドとして実施する。
★狙い...日常利用とスポーツ利用の不連続部分を埋めるために、日本の実情でも実施可能な大運動会可能なTHT26の有用性を解きながら、三位一体地域貢献型サイクリングクラブのタネを各地に撒く。
★CKYP7...紅葉のラリーデー2018は、山口さくらみずの助成事業としてサイクル県やまぐちProjectと連携し、県自転車軽自動車車協同組合、県サイクリング協会、県自転車競技連盟、および各市町と企画調整中。
C&O/自転車用ヘルメット利用とリアルCAJの両輪でCAJコンペ&ザッピング、スポーツサイクリングの二輪を軸に。

★自転車市民権獲得のために-その4/ザッピングで他の交通とリスペクトしよう!

※歩く!食べる!学ぶ!防犯からたどらば
★CKYP7...「歩く」に研究会が「自転車さんぽ」をアレンジし、市や町の助成を受け「岩国かるたドライブ」を、また、いづくにハスの協力を得て公共交通バージョンを実施。実現に向けて具体的な企画調整中。
C&O/自転車用ヘルメット利用とリアルCAJの両輪でCAJコンペ&ザッピングの二輪を軸に。

[/RCAJ_CandO_04.jpg](#)

自転車活用推進計画異議-5-5

...先行実施と全国展開...

★自転車市民権獲得のために-その1/日本の実情を「街道」から認識しよう!
...大人のサイクリングと子供のサイクリング...

第一次サイクリングブームが起った理由は、モータリゼーションの波が押し寄せたこと、そして、その後道路は経路交通優先で自動車のものとなっていった。今に至るまで、それでも大人のサイクリングの普及や、大規模自転車道の建設など、努力を怠った訳ではないが、MTBブームやエコ系自転車ブームで、山道走行問題やイベントサイクリングの弊害が見え隠れし、子供のサイクリングの域を脱していない。

1990年代後半に導入したサイクリストの實力認定システム「ブルベ」は、時期尚早と言えながもマップ詳細は高く、商品価値にも繋がっている。しかし、公的組織認定のナショナルレベルには届いておらず、実現出来なければ自転車市民権獲得とは言いえない!

CKYP7で、新着技術サポート付きブルベを先行実施しながら、RCAJで、ブルベカードとSBAA認定ショップで購入し出走するスタイルを確立し、その過程で、サイクリングに必要ない道の使い分けなど、「日本の実情」の検証作業を行った。

★自転車市民権獲得のために-その2/日本の地域資源を「山道」から学ぼう!
...レース+ワークショップ+ワークアウト...

1980年代初頭にアメリカで生まれたマウンテンバイクは、優勝開始も当初は「ATB」と呼ばれていた。また、非公式ながら日本にも上陸したのが、甲本善治が、1989年、シブタノ/ATBしてキャンペーンを行い、そこからはブームが始まった。

ブームの最中、各地でイベントが行われ、それまでと違ひ方が変わったと言われた。しかし見解はあった。スタッフの活動時間や山道問題、レースやザッピングコースでは山道サイクリングの重要性(自己責任、セキュリティ、地域資源保護)が投げ捨てられている。欧米ではイベントと呼ばれる電動アシストMTBが台頭していると噂している。

既存のMTBイベントを連年予選大会を一年目に行い、二年目にメーカー冠のブロック大会、そしてRCAJ決勝大会を、日本の休日事情を考慮して行う。そしてブロック大会はレース+ワークショップ+ワークアウトの複合イベントとし、山道問題を乗り下げる。

[/RCAJ_CandO_05.jpg](#)

自転車活用推進計画異議-6-6

★自転車市民権獲得のために-その3/自転車の二面性を「町の道」で検証しよう!
...日常利用とスポーツ利用...

「THT26が自転車さんぽ」のTP課まで見ては「道」の多さです。「路地を曲がる」と「坂を登る」とは、赤い線の下書きです。自転車に乗って知らない道を走る。そんな道はめぐる時間です。2007年転送活動開始計り。

またその中で地元新聞記者から、「普段15分程度しか自転車に乗らない人が2時間30分時間自転車に乗ることには驚かされた」という指摘があったことにも触れています。その質問も、日常利用とスポーツ利用の間に意識の差がある、改めて検証しよう!

「自転車には歩行者の利用と自動車の利用がある」とは、自転車は軽便車、原動機のない走りを改めて示した時の意見。表現は異なるが自転車の二面性を現している。スポーツ利用のママチャリ利用、ママチャリのスクーター化の利用、どちらもありだと思ふ。二面性に即断している警察も認めている「THT26で、大人のサイクリング活動のベースとなる地域貢献型リアルサイクリングクラブの必要性を検証しよう!

★自転車市民権獲得のために-その4/ザッピングで他の交通とリスペクトしよう!
...ザッピングと和風サイクリングフォアオール...

自転車は、東京五輪に向けて集めてオランダ大使館員が自転車と他の交通との関係性を現した言葉。「スペース」は、バイクロード系系大会で車道走行推進の大学教授が現した言葉。そして「和風サイクリングフォアオール」とは、今回の発表で両面では無いロード系ロードレーサーの乗用を自損自損保護者にならぬ道。それらが共通認識として、コースクリエイターへの評価が高まる等々大イベントを自損自損の機会として設けることが、審判員として設けることと直結するのでは!?

今後どうするか?警察見解のTHT26に逆行しないからこそ懸念の山道問題、MTBラリー&ザッピングが中上層者に支持されたいとして、日常利用とスポーツ利用の不連続が解消しなければ、**絶望的な活動がグレーゾーンに分類**されます。その不連続の解消が自転車市民権獲得であり、地域貢献型リアルサイクリングクラブ「大人のサイクリング活動」です。「<不連続」に変える先行実施「CKYP7」と全国展開「RCAJ」のご理解をお願いします。

[/RCAJ_CandO_06.jpg](#)

※添付資料/希望的展開案比較

【CKYP7とRCAJ】
(先行実施でノウハウ蓄積) vs
(全国展開でサイクリングネットワークの再構築)

【街道】
(山口ブルベ+スペシャルデイ)
vs (SBAA認定ナショナルブルベ)

KT3a.jpg

【山道】
(汗汗フェスタ+羅漢スターリッジトレイル)
vs (RCAJトーナメント)

【町の道】
(山口セレクション)
vs (BAAカップ萌黄と紅葉のラリーデー)

【ザッピング】
(岩国かるたドライブ)
vs (和風サイクリングフォアオール)

KT3b.jpg

※添付資料/希望的展開案比較

【CKYP7とRCAJ】
(先行実施でノウハウ蓄積) vs
(全国展開でサイクリングネットワークの再構築)

【街道】
(山口ブルベ+スペシャルデイ)
vs (SBAA認定ナショナルブルベ)

【山道】
(汗汗フェスタ+羅漢スターリッジトレイル)
vs (RCAJトーナメント)

【町の道】
(山口セレクション)
vs (BAAカップ萌黄と紅葉のラリーデー)

【ザッピング】
(岩国かるたドライブ)
vs (和風サイクリングフォアオール)

KT3c.jpg